

# 北茨城民報

日本共産党  
北茨城市委員会  
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団ニュース

ご相談は  
お気軽に

市議会議員  
**福田 明**  
43-0468

市議会議員  
**鈴木やす子**  
42-2462

## 18歳の春を泣かせない

### 今年度の高校生の卒業と就職の実態をうかがう



#### バザー

手をつなぐ育成会による作品展とバザー  
(1月28日、ふれあいセンター)



#### ふるさと学習

市役所ロビーで、学校ごとの体験学習などの展示がおこなわれています。2月25日まで。



#### つるし雛

いわき市、小名浜の北に位置する中之作漁港そばの通りに、約3000といわれるつるしが飾られ、たくさんの人出でぎわっていました。(2月5~7日)

高校を卒業しても就職が決まらない問題が今年も深刻化しています。また、授業料や学校納付金等を滞納していることを理由に生徒が卒業できない事態が、県内の公立高校でも起きています。そうした実態を調査するために、日本共産党市議団は東北地区の3校(普通科高校・商業高校・工業高校)を訪問し、校長先生と懇談しました。

就職の内定状況については、商業高校、工業高校とも100名からの就職希望者のうち、まだ10名前後が決まらず、生徒や就職担当の先生が懸命に努力している状況でした。普通高校では約9割の生徒が進学希望で、就職希望者は約30名とのことですが、就職が決まらず、逆に進学に切り替えた生徒もいるとのことでした。



授業料等の滞納問題については、ある校長は「今年度から授業料が無料化されたが、父兄のなかには、学校でかかるすべての諸経費を含めて無料になったと理解している方もいて、なぜ納めるのだと抗議されたこともある」と話しています。

母子家庭の生徒が多く、経済的には大変な家庭も多いが、生徒自らが多数バイトしている。滞納を理由に卒業させないということは人権問題であり、本校はそうしたことはない。滞納している生徒には、社会人になってから納付してほしいと卒業させている」と話しています。

日本共産党市議団は、学校側に「たいへんな生徒にたいしては、ぜひ長期(20年)・無利子の貸付制度の活用を勧めたい」と話している。高校生の就職問題については「18才の春を泣かせないように、引き続き議会に取り上げていきたい」と感じました。

福祉分野では、妊婦検診の14回分の助成を地元医師会と協議のうえ継続することが決まりました。雇用では、新卒者を中心とした就労支援の「重点分野雇用創出事業」を50人から80人に拡大しようとしている。また、住宅リフォーム資金助成制度は、今年度は申し込み件数も増えていることから、継続していくとの考えが示されました。

市の新年度予算に対し、日本共産党市議団として提出した要望書については昨年11月14日付の本紙で報告しました。このほど、執行部から文書での回答が届きました。主なものを紹介します。

## 予算要望に市から回答書 住民の生活と福祉の向上を図る



学校再編については、保護者、地域の方々と話し合い、意見を十分に聞きながら慎重にすすめていく姿勢です。学校図書や市立図書館の蔵書・資料の充実にも引き続き努めていくとしています。

不法投棄監視については今年度、臨時職員3名を常勤監視員として採用し、専用車両による巡回監視を開始していますが、引き続き常勤監視員の採用を検討しています。

住民の生活と福祉の向上を図ることを予算編成の方針として、全体の予算削減はしないとしています。水道料金の引き上げは当面はないこと、また、各種使用料金の見直しについては経済情勢を十分考慮していくとの方針が出されています。

市議団では「民生費・教育費など削減はしない」との方針は評価するが、国保料金の引き下げの問題など、今後も引き続き、住民要求実現、福祉の向上のため力をつくしていく